

豊かな狛江をつくる市民の会通信

豊かな狛江

豊かな狛江をつくる市民の会

狛江市東和泉 1-1-18 いづみ荘 103 号室
新日本婦人の会狛江支部気付
連絡先：080-5084-1821（前土肥）
郵便振替口座番号 00140-3-727253

第 289 号（2024 年 8 月号） / 2024 年 8 月 1 日発行

市民の声が届く狛江を

豊かな狛江をつくる市民の会 2024 年総会開かれる

2024 年総会を7月 27 日（土）14 時から東京土建狛江支部会館で開催しました。出席は 24 人でした。

議長に林健彦世話人を選び、矢野裕共同代表が開会挨拶を行いました（全文別項）。

都知事選と都議補選で明らかになったこと

情勢報告を国政・都政について平野よしとか共産党調布・狛江・府中地区委員長、市政報告を宮坂良子共産党市議団長が行いました。

平野さんは自民党が裏金問題で行き詰まり、都議補選で立憲民主党と自民党の一騎討ちとなった足立区では、蓮舫知事候補の 2.5 倍得票した立憲民主党が勝利したこと、知事選で2位だった石丸候補は第三極として、自民党の別動隊の役割を果たしたことなどを説明。都知事選での弱点として①市民と野党の共闘の姿を示しきれなかったこと、②小池都政の批判が弱かったことを挙げました。狛江では立憲、共産、社民、生活者ネットが共同選対を作って選挙をやれたことが大きな財産であり、これを活かしていきたいと述べました。

宮坂さんは学校給食無償化、補聴器購入助成制度、子どもの医療費無料化など、永年の運動が実ったこと、しかし狛江駅北口で市民の声を聞かずに樹木が伐採されていることを紹介しました。最近の大きな成果は小中学校で労働安全衛生体制が進み、2校に産業医が置かれるようになったことです。

活動方針に市長選委員会

前土肥事務局長が前回総会（2023 年1月 28 日）以降の経過と、東京土建狛江支部から今村真治委員長が世話人に加わったことを報告、今後の活動方針で「市政転換のため市民派市長誕生をめざし、政策立案と



候補者選定のため委員会を立ち上げ」ことを提案しました。

若見会計が 2023 年度の決算を報告し、2024 年度の予算を提案しました。

各団体が報告と提起

討論では、まず豊かな会の構成団体が発言しました

「狛江生活と健康を守る会」の田岡恭子会長が、貧富の差が激しく、少子化対策といいながら若者対策がなされていない、若者が希望を持てる社会に努力していきたいと述べました。

「東京土建狛江支部」の牧岡書記長は、狛江市が制定に後ろ向きな公契約条例制を、知事選で蓮舫候補が公約に掲げ応援したこと、インボイス制度で消費税に苦しめられる人が増えたこと、東京土建全支部で健康保険証継続の陳情を出すこと、平和運動のとりくみを紹介しました。

「調布狛江府中民主商工会」の斉藤事務局長は業者の困難が会員減になり、地域の運動にどう参加するか苦慮していると発言しました。

「新日本婦人の会狛江支部」周東支部長は、給食無償化など何度も陳情を繰り返したことが実ったこと、図

書館住民投票では新たなつながりができ、これらを形あるものにしたい、狛江市をどのようによくなるのかを考えられるのが豊かな会だ、2年後の市長選挙は直前になってバタバタしないようふさわしい人を今からさがしていこうと結びました。

「こまえ年金者の会」岡村会長は会の歴史と活動内容、会報などを紹介しました。

共同団体の「戦争なんてイヤだ！ 狛江市民実行委員会」前土肥さんは、毎月の「九の日」宣伝など平和運動と、衆議院22区市民連合「ちょこみた」が市民と野党の共闘をめざしているとりくみを紹介しました。

世話人の重国毅さんが、「PFAS 汚染を明らかにする狛江の会」が学習会と市民の血液検査、「水と緑のまち狛江を大切に作る会」が取り組んでいる狛江駅北口の樹木伐採問題は図書館住民投票からつながっている、いずれも市の対応は市民の声を聞かないと述べました。

和田哲子さんが来年度中学校教科書採択が8月 17 日(土)の教育委員会で決まることを報告し、今年検定を合格した令和書籍の歴史教科書「国史」が採択されることのないように注視してほしいと発言。

石川巖さんは、都知事選の結果にモヤモヤしていたが、市民と野党の共闘に弱点があったこと、それでも狛江では具体的な提起があったのでそれに答えたと言いました。

宮坂市議が、市が公報で「12 月2日から現行の健康保険証は発行されない」から「マイナンバーカードの申請を早めに」としている問題、狛江駅北口樹木伐採中止を求める市民に対し、三宅市議が「失せろ」と発したことを市議会会派代表者会議で問題にしたが、本人は「不徳のいたすところ」と述べるのみで謝罪しなかったことを報告しました。

以上で討論を終え、活動方針と決算・予算を全員の拍手で承認しました。

狛江市の民主主義を守るため、次の市長選、市議会議員選挙が重要

最後に増田善信共同代表が閉会挨拶し、図書館移転に関する住民投票条例が、制定請求に必要な署名数を大幅に超えたにもかかわらず、共産党議員団と平井市議以外の全政党・会派によって不承認にされ、今の市長に変わってから市議会がオール与党化している証拠ではないか、狛江市の民主主義は地に落ちている、狛江市の民主主義を守るため、いよいよ次の市長選、市議会議員選挙が重要になってきた、ともに頑張りましょうと結びました。

会費の納入をお願いします。(先月号に振込用紙を入れてあります)

矢野裕共同代表挨拶

皆さん、都知事選ではお疲れさまでした。蓮紡さんは3 位という大変残念な結果でしたが、今後の政治変革につながる貴重な財産を残してくれたように思います。

今回の結果は、自民党政治への批判が弱まったからではありません。小池知事に投票した人は半数以下であり、都議補欠選挙で自民党が 2 勝 6 敗、3 議席減になったことと併せて、自民党政治ノーの世論は変わっていませんでした。

今度の知事選で、立憲勢力が候補者の選定で同じテーブルに就き、共闘が実現したことは、いま国政で立憲野党の共闘が機能していない中、東京では「市民



と野党の共闘」が健在であることを示したことは、共闘の再構築をめざしている全国の人びとの励ましとなりました。

さらに、自らの意思で選挙行動に立ち上った一人街宣は、把握しただけでも、のべ 3 千人にのぼり、投票率は 60%を超え前回より 5%増、60 万近い有権者が選挙に加わったことは、主権者がその自覚を深めた選挙戦として、民主主義発展の観点からも評価できるのではないのでしょうか。

そのうえで、なぜ勝てなかったのかの分析が必要ですが、戦略と言うより、戦術面で私たちが遅れをとったのだとみています。

東京の知事選挙は、95 年の青島知事以来、有名人が知名度だけで当選というケースが続いています。青島さんは公報と掲示板ポスター以外選挙運動しません

でした。その後の石原さんは立候補表明を遅らせ、候補者間での政策論争を避けました。

小池知事も最初の候補者討論会で失敗し、以後は出演を拒み続けました。都政の運営手法や政策などの論戦をせず、知名度だけで当選するような劇場型の選挙をどう打ち破るのか、私たちに宿題を残したように思います。

また、ネット世代や無党派層、政治的無関心層が石丸候補に流れる一方、私たちは従来型選挙の延長線で闘うにとどまり、この分野への働きかけが圧倒的に弱かったと感じています。彼の政策は抽象的スローガンの的で、どういう東京を創るのか最後まで明確ではありませんでした。しかし安芸高田市長時代議場で居眠りをした議員に、市長席から「恥を知れ」などと罵倒し、議会との協調を進言した議員をなれ合い政治を強要したとして、議会との対立を動画などで発信し攻撃しました。

若い世代は石丸さんの言動を首長としての資質に疑問を持つのではなく、逆に既成の政治とは妥協なく闘

う改革者として受け止め、自民党政治や小池都政に不信を持つ若者たちの共感を得てしまったのではないのでしょうか。

しかし石丸さんは、ドトールやニトリなど財界すじから多額の選挙費用を受け、選挙参謀は萩生田自民党都連会長のブレーンだったなど、無党派、改革者としてはもう化けの皮がはがれ出していますが、彼が消えても、野党とか改革者の顔をしながら自民党政治延命の役割を果たす第 2、第 3 の石丸は、地方でも国政でも出現するだろうと思います。だからこそ私たちは、SNS はじめネット世代、無党派層、政治的無関心層に届くような運動づくりが待ったなしとなっています。

狛江では、国政から市政まで主権者が主人公の政治をめざし、「市民と野党の共同」を進める組織は、この豊かな会だけです。だからこそ複雑な情勢、新しい社会に適応した運動を、柔軟かつ創造的に作り出すことが求められていると思います。本日の総会ではこうした問題意識を共有し、狛江の、そして日本のこれからを議論していただけたらと願って、挨拶といたします。

東京都知事選挙

蓮舫さん健闘およばず



7 月 7 日に投開票が行われた東京都知事選挙は、市民と野党の共闘の候補として先頭に立って奮闘された蓮舫候補は 128 万 3262 票を獲得しましたが及びませんでした。

蓮舫候補は開票結果を受け、「多くの方々に温かい言葉と応援をいただき、想いを訴えることができた」と述べるとともに、「共産党をはじめ多くの方の力をいただいたのは私の財産だ」と語りました。

革新都政をつくる会のニュースから、都知事選の取り組みを紹介します。

今回の都知事選挙は、蓮舫候補の立候補表明が告示まで 1 カ月を切るという短期間の活動という困難を乗り越えて、労働、女性、青年、業者、福祉・医療、文化・スポーツなどの広範な分野と衆院小選挙区を軸にした地域の共闘が市民と野党の共闘という旗印のもとに結集し、総力をあげたたたかひがとりくまれました。

この市民と野党の共闘は一夜にしてできたものではなく、2020 年都知事選挙の前年、浜矩子（同志社大学教授）、五十嵐仁（法政大学名誉教授）、永山利和（日本大学元教授）3 氏の呼びかけに応え、

「東京における市民と野党の共闘の実現、小池都政の転換をねがう」多くの方々が結集、2019 年 9 月に開催された「都政を考える夕べ」での総意にもとづいて「市民と野党の共闘で都政転換」をめざす呼びかけ人会議が結成されたことから始まり、その後の長く粘り強いとりくみが今回の都知事選挙での市民と野党の共闘の全都的発展を可能にしたのです。（中略）

2021 年 9 月の「呼びかけ人会議集会」、10 月の「スタート集会」今年 1 月の「キックオフ集会」、6 月 18 日の「オール東京集会」と共闘の輪を広げ、「候補者選定委員会」による蓮舫候補擁立など、初めての本格的な市民と野党の共闘による都知事選を迎えました。

この取り組みは「新たな民主主義の動き」であるとともに「今後の日本と東京の政治を変える上で大きな力」となるものです。同時に今回のとりくみでは、市民と野党の共闘による選挙体制、市民と野党、候補者との政策協定、対等平等の原則などで克服すべき課題を残したことを指摘しなければなりません。（都民がつくる革新都政 7 月 15 日号より）

【続報】 狛江駅北口樹木伐採問題 ヤナギ保存など一部見直したが、多くの課題

日本共産党狛江市環境まちづくり推進室長 重国たけし

狛江駅北口の樹木・緑の伐採・撤去（泉の森会館側）が7月16日から始まり、泉の森会館に向けた歩道では、5本の樹木と植え込みなどがすっかりなくなりました。9月下旬からは、噴水の撤去と泉龍寺方向の3本の伐採と土の地面の舗装が予定されています。

計画の一部見直し

この間、多くの市民から、狛江の玄関口の緑と景観を守ってほしいと、伐採計画見直しの要望が出されてきました。6月議会の陳情は自民・公明・維新・生活者ネットらによって否決されましたが、駅前でのスタンディングなどが続けられました。共産党市議団も、市長あての緊急要望を行いました。

そうしたもと、伐採予定だった11本のうち、3本（シダレヤナギ、シラカシ、シイノキ）は伐採しない、4本（サルスベリ2本、イロハモミジ2本）は他所への移植となり、伐採は4本（シイノキ2本、ムクノキ、シダレヤナギ）に見直されました。市民の声が市政を動かした貴重な成果です。

但し、樹木伐採以外の計画は当初の計画通りです。

市民の声を聞く場設けず

一部見直されましたが、陳情の要望でもあった市民の声を聞く場は設けられることなく、商業利用（道路空間を利用した賑わいづくり事業＝「ほこみち」）などのために緑の撤去が行われることに変わりはありません。

撤去工事が行われる直前の7月14・15日には「水と緑のまち狛江を大切にする会」（重国たけしも参加）が狛江駅前で緊急のシールアンケートをおこないましたが、関心は高く約70人が回答し、ほとんどが「緑を減らさないで」との回答でした。

9月末からの工事で伐採予定の4本のうち2本は適切な剪定によって維持できる樹木です。市民の声に沿って保存することが求められているのではないのでしょうか。

三宅議員が市民に「うせろ」と暴言、議会の正式議題に

7月8日、狛江駅前で「ほこみち事業と土と緑の共生を」とアピールしていた市民に対し、三宅まこ

と市議が「うせろ」と暴言を浴せました。「通行の妨げになっていた」などと一方的な言い分を述べていましたが、議員としてあり得ない発言です。

市民からの申し出を受け、26日に急ぎょ開催された市議会会派代表者会議では、このことが「問題発言」として正式に議題とされ、議長は「議会の品位を問われることにつながりかねないもの」と指摘しました。三宅議員は「うせろ」と発言したことを事実と認めましたが、「不徳の致すところ」とするのみで、市民への謝罪の言葉はありませんでした。

木陰は暑さを軽減

人が感じる暑さは、気温だけでなく、湿度、風の強さ、日射や高温化した路面などから放出される熱（赤外放射）の違いに大きく影響されます。日向より木陰が涼しいと感じるのは、木陰の気温が低いためと認識されていることも少なくありません。実際には、日向と木陰の気温がほぼ同じ場合でも、木陰では日射や路面からの赤外放射が少ないために、日向より涼しく感じます。（環境省「まちなかの暑さ対策ガイドライン」から）

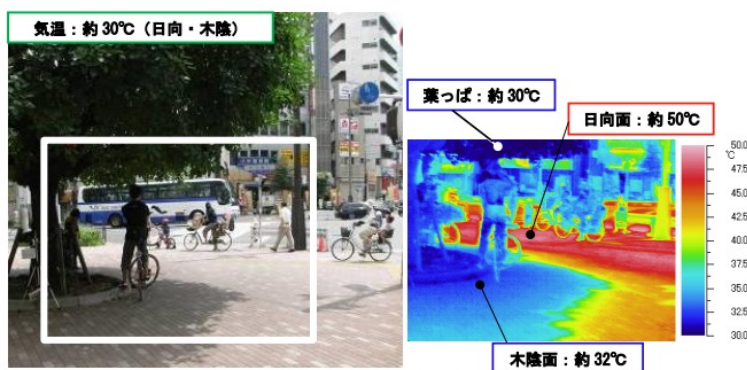


図 1.1 木陰のある交差点（東京都江東区木場）

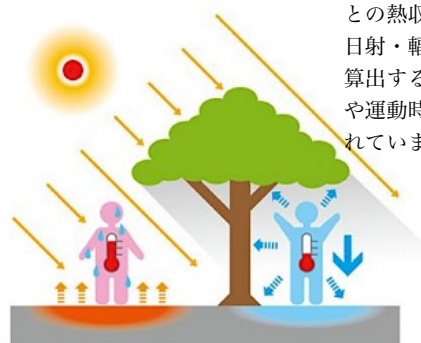


図 1.2 日向と木陰の暑さ指数(WBGT)の違いのイメージ

核兵器のない世界を！

7・20 こまえ平和行進・リレートーク



今年は広島・長崎に原爆が投下されてから79年。8月4日～6日に広島で開かれる原水爆禁止世界大会目指して日本中から平和行進が行われています。狛江でも単独で駅前リレー・トークと平和行進を行いました。

熱中症警戒アラートが出ている中でしたが、大熊啓さんの進行で核兵器廃絶に向けて大熊さんの歌とスピーチ、続いて新婦人、大学生、平和フェスタ実行委員がスピーチ。参加者は平和行進のチラシを配布しました。チラシの受け取りも良かったそうです。

そのあと南口に移動して、つつじ児童遊園からデモ行進に出発。シュプレヒコールの合間に大熊さんの演奏で「青い空は」、「折り鶴」などを歌いながら世田谷通り、狛江通り、市役所前を行進しました。途中、店頭や建物の上階から手を振ってくれる人もあり、声をあげ続けることが大事だと改めて思いました。参加者は約40人でした。

暑さを考慮し、集会30分、デモ行進30分のコースとしましたが、人通りのあるコースで良かったと



の感想でした。

8月の原水爆禁止世界大会では、核兵器の非人道性を告発し、「核抑止力」論の誤りを明らかにし、核兵器禁止条約の促進、「核兵器のない世界」のための共同行動について討論されます。

マイナ保険証がなくても、12月以降も保険証は使えます！

広報こまえ7月15日号にマイナンバーカードの申請を促す記事が載っていました。

健康保険証は今年12月2日（月）から発行されなくなるので、早めにマイナンバーカードを申請するようにと、いかにも12月2日から現行保険証が使えなくなると思わせる書きぶりですが、12月から使えなくなることはありません。12月以降も現在の健康保険証の有効期限まで今まで通り使えます（今年の8月1日交付のものは来年の7月31日まで有効）。有効期限が切れてもマイナ保険証を持っていない方には申請なしで「資格確認書」が交付され、これまでの保険証と同様に使えます。（それならなんで保険証のままでいけないの？）

マイナ保険証はいろいろトラブルが多く、悪用されるのではないかと、自分で申請ができないなどの不安も多く聞かれます。医療機関や介護施設などでも困っているとの声が上がっています。国民の声を聞かず、弱い者いじめの制度のゴリ押しは止めさせましょう。

8月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。
※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、300部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(土) 17時30分～ 18時30分	狛江駅前	Silent Standing	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
9日(金) 10時30分～	みんなの広場	「豊かな狛江」9月号 編集会議	
9日(金) 17時30分～ 18時30分	狛江駅前	9の日行動 ＝駅前署名・宣伝行動	戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会
17日(土) 10時～	防災センター 4階会議室	教科書採択教育委員会	傍聴に行きましょう。
18日(日) 13時30分～	エコルマホール	こまえ平和フェスタ2024	平和フェスタ実行委員会
21日(水) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	戦争なんてイヤだ！全体相談会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
22日(木) 14時～16時	西河原公民館 学習室2	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
23日(金) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	こまえ社保協事務局・役員会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
26日(月) 14時～16時	みんなの広場	豊かな会拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
27日(火) 9時30分～	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』 9月号の製本・仕分け作業	折り込みのある団体はご参加ください。
28日(水) 17時30分～ 18時30分	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》 の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支部などが中心。第4水曜日。

住民投票の取り組みについて報告してきました

「東京の図書館をもっとよくする会」 総会で狛江の状況を報告しました

7/14（日）午後開催の上記もっとの会総会ではほかに清瀬市（人口約7.5万人）から報告がありました。財政が厳しい、利用者が減っていることから市立図書館6館を2館に削減、運営も指定管理者にするという計画が今年2月に公表。納得できないと子ども劇場を中心にしたグループが3,900名余りの署名を集め、議会に請願したが不採択、条例は可決されてしまった。

また事務局からの報告によると、町田市では資料費増額を求める請願が昨年未採択とな

り、施設の再編計画では鶴川図書館が2025年度から民設民営に。さるびあ図書館と中央図書館の集約（統合）も検討中とのこと。

さらに会場内で配布されたビラでは練馬区立貫井図書館（美術館との複合施設）が建て替えにより、「今よりも使いにくくなる！」：現在1階ワンフロアの図書館が6層に分散、休館期間が3年！、代替施設が未定などなど。

国が進める施設再編計画の影響か、どこも厳しい状況で、何よりも「だれにとっても利用しやすい図書館」がないがしろにされていると強く感じました。

（こまえ図書館住民投票の会 林健彦）

三多摩社会教育交流集会

「社会教育施設を市民と共に育む」で報告

6/30（日）午後、国分寺市本多公民館で開かれた交流集会に参加しました。基調講演では元国立市公民館長の荒井敏行さんから「公的社会教育の連携で主権者の学びと市民自治を考える」と題して、I. 民主主義は機能しているか 1. 国・自治体の行政と民意の乖離、2. 「民主主義の学校」としての地方自治を立て直す、3. 2元代表制と自治体の3権分立（住民による司法的役割の重要性⇒権利（制度）としての請求権、請願権）、II. 住民自治を支える「知る権利」の保障についてなど図書館に関わる現状などが話されました。狛江市長が住民投票条例につけて意見書も問題だと指摘されました。

多摩市（人口14.7万人）から2023年7月に開館した多摩市中央図書館を作る運動の報告がありました。図書館7館＋分室。1999年にワークショップで市民提案、2000年2月に中央図書館の早期実現を目指す会を立ち上げた。2019年8月に基本設計完了までは市民協働路線が保たれた。単独館として作られた。これからの課題：中央図書館と6地域図書館と行政資料室を含む全館で一つの図書館システム、必要な人員と資料の確保、施設の改修。

東京の図書館状況について、指定管理者制度導入状況の報告、所管が首長部局になっている自治体があるとの報告もありました。

（こまえ図書館住民投票の会 周東三和子）

<写真は多摩市中央図書館>



こまえ平和フェスタ 2024 にご来場を！

こまえ平和フェスタ副実行委員長 西尾真人

8月18日（日）午後1時30分開演（12時30分開場）、エコルマホールにて開催します。

『戦争の放棄、交戦権の否認』を、狛江市及び狛江市民の行動原理として高く掲げた狛江市平和都市宣言の普及と実践を目的とした、市民による催しです。2005年以来、2020年のコロナによる中止以外は毎年夏に開催してきました。

今年は「子どもの権利条約」を日本が批准して30年になるのを記念して、「えがお ひろがれ！いのち かがやけ！—知ってる？子どもの権利—」のテーマで、中学生4人による朗読劇（約30分）、合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」（約45分）を演じます。市民手作りの舞

台とホワイエでの展示です。

読者の皆さんへのお願いです。どうぞ、周りの方々を、子どもさんをお誘いしてご来場ください。入場無料です。昨年は4年振りのエコルマホールでの開催で来場者は多くありませんでした。今年はぜひ、コロナ前の観客に回復させ、皆さんと「平和について考える1日」にしたいと願っています。（写真：こまえ平和フェスタ合唱団の練習風景）



狛江の自然



蓮の実

蓮の実のほっくりとした食感は、炊き込みご飯にぴったりだ。蓮の実をあらかじめ砂糖で煮ることで、栗ご飯のような味わいに仕上がる。蓮の実が手に入ったら、ぜひ試してみてください。

（岩戸南 高橋 廉）